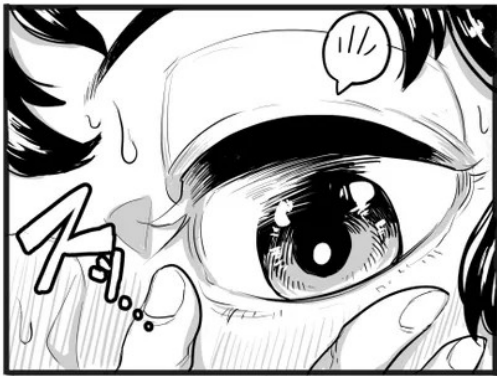












もう一度会って
お礼が言いたくて



それは…
入学式の筆おろし体験の
時の慰安員ですか？

はい
そうです…



なるほど…
それでもその慰安員に
会いたい、と

でも学園の慰安室には
いないし
筆おろししてもらった時は
名前も聞けなくて…



…あの、話
聞いてます？

はい
ちゃんと
聞いてますよ♡



僕、筆おろしして
貰うまで
自分に自信がなくて
いつもモジモジして
たんですけど

でも
あの慰安員さんに筆おろし
してもらってから
自信みたいなの
ものが付いたんです



数日後…
第二慰安所の一室

あ、あのー

ゆりさん、
ですよ…？

はい
ゆりです♡

はつよろです♡

すみません
実は…

ち、違う…
あの慰安員さん
じゃない…！

肌が
褐色だし…

？



あゝ
でもこんだけデカいと
しゃぶり甲斐
ありますわ♡

このデカチンで
何人慰安員
ハメ潰してきたん
すか？w

タマもデカいし
精子の量
ヤバそう♡

っべー
もう我慢
できない
っすわ♡

♡ウウウウ♡







イエ〜♡
クジラ〜♡

日向さまマジ
反応かわよ〜♡

んじや次
お尻いき
ま〜す♡

まっ
待ってください

てか筆おろし
やってた時
思い出して
アがるわ〜



いえ
僕が勘違いした
だけなので…

へえ？
人違いやったん？

それは
申し訳ないなあ

…あ、私
よお考えたら
その人知ってる
かもしれん

んー、でもなあ
せっかく来て
くれたしなあ

せやからあ…

うおっ

フザッ♡

スッスッ♡



ええでしょう、これ？
得意技やねん♡

スリッスリ♡

おっぱい
しゃぶりながら

おちんちんも
気持ちよお
できる♡

…あ
先っぽのほう
ぷくうって
膨らんできたなあ♡

いつでも
びゅー♡って
してええからね♡



僕は
つたない情報を
頼りにしながら

放課後や休みの日に
いろんな
慰安所・慰安室を
巡りました

そんな毎日を
過ごしていき...









うーん
どうだったかな？

ちょっと記憶が
ぼんやりしてて…

私のおまんこ
ぶっ壊れるくらい
使ってくれたら

思い出すかも
しれません♡



え…でも
そんなこと…

もじ…

えー？それじゃあ
思い出せない
ですねえ



このままだと
日向さまは
永遠にお姉ちゃんと
会えないかも…





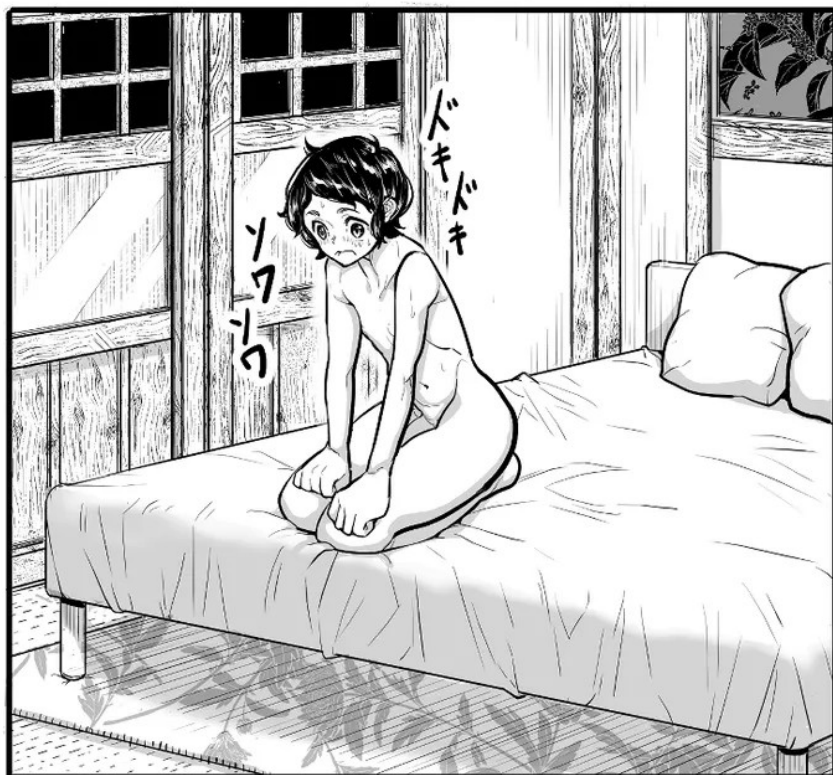
名前はっ？



ありがとう
ございます…
助かりました

どうどう
いたしまひひえ

楽しんできて
くだひゃい



本日、ご奉仕させて
いただきます

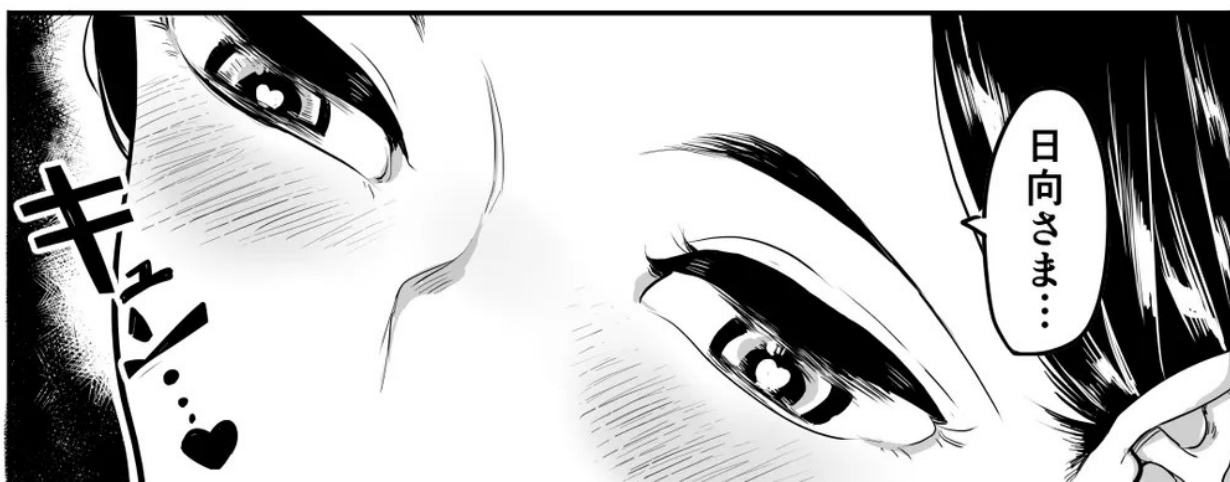
月音と申します
よろしく
お願いします

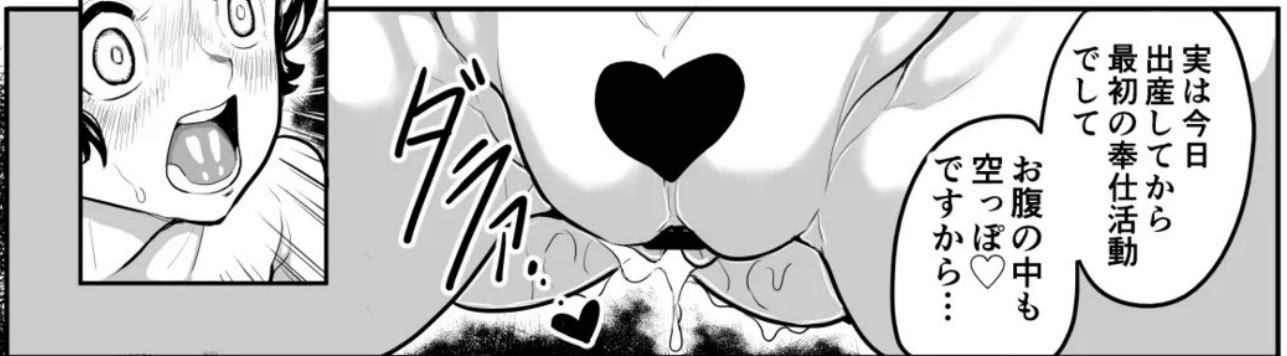
お隣
失礼しますね

あら…

カチコチ







A国男性である
日向さまの
立派なおちんぽで

植民地産の
使い古しの便所穴では
ありませんが

精一杯マン肉動かして
ご奉仕させて
いただきますので

精子いっぱい
お恵み下さい♡

あっ♡あっ♡
腰がっ♡
止まんないっ♡

月音さんの穴っ♡
前よりっ♡
やばいっ♡

ありがとうございます♡
ございます♡
でもユルかったら
言ってくださいね？

ケツ穴に
おもちゃを突っ込めば
少しは締まりも良く
なりますので♡

全然ユルくないです♡
すごい気持ちいい
ですっ♡

あっ♡
本当ですか？



中がウネウネ
おちんちんに
絡みついて♡

いっぱい
しごいてくれる♡

奥までふわふわ♡
僕のおちんちん
全部飲み込んで
くれる♡

とにかく
このマンコ気持ち
良すぎますっ♡

いっぱい
おまんこ穴褒めて
くれて嬉しいです♡

おっ♡

えいっ♡



私おっぱい
まだ出るんです♡

もし
よろしければ
お飲みに
なれますか？

もちろんです♡
いくらでも
お飲み下さい♡

おっぱい…
いい、いいん
ですか？

おまんこ
ほじりながら
でも
いいですし♡













あとがき

ご購入ありがとうございます。沼坂星作といいます。
今回の作品を描こうとした経緯、というか、元ネタ、を
書いておこうと思います。

私が以前アルバイトをしていた職場に、Aさんという男性がいました。
彼はそのアルバイト以外にも複数の仕事を掛け持ちしており、
忙しい分、お金の余裕はあるようでした。

では、その稼いだお金を彼が何に使っているのかというと、
ほとんど全て風俗に注ぎ込んでいるというのです。

その入れ込み様は凄まじく、誇張抜きで週9回くらいで
様々な場所・タイプの風俗店を利用してるというのです。

何故そこまでするのか？と私が聞くと、初体験の風俗嬢に
会いたいから、というのです。

詳しくは教えてくれなかったのですが、その女性のおかげで
今の自分がある、だからお礼が言いたい、なので風俗店に
通って探している、彼はそう言っていました。

私は内心、いや、それが本当なのだとしたら無理があるのでは？
と思ってしまいました。もう風俗店で働いてないかもしれないし、
人数だって全国に数えきれないほどいるわけです。

しかも、彼がその女性に会ったのは30年ほど前だと言います。
そんな生活を20年続けている…

僕はそれらの懸念を彼に伝えませんでした。

休憩中に血走った目で風俗店サイトをスマートフォンで閲覧し、
鬼気迫った様子で初体験の女性のことを何度も語る彼に対し、
少し恐怖心を覚えていたからです。

ただ、理屈ではなく、ある種の信念、信仰に殉ずる敬虔な殉教者
のような生き様に、尊敬の念を感じていたのも確かです。

Aさんはその後、無断欠勤が続いて、以来行方知らずになり
私もそのアルバイトは辞めてしまったので、その後のことは
わかりません。今から5年くらい前の話です。

この話は、そんな彼を思いながら描きました。

長々と書いてしまいましたが、

改めて読んでいただきありがとうございます。

またの機会があれば、その時は是非、よろしくお願いします。

沼坂星作

※インターネットへの違法アップロード、ネットオークションフリマアプリなどへの出品等、
不特定多数に向けた全ての転載・転売行為を禁じます